

せと・しごと塾 塾生開業情報

(件名)

「せと・しごと塾」の第6期生が本格開業しました！(vol.17)

(資料の概要)

現在、「せと・しごと塾」第7期生のカリキュラムがスタートしておりますが、第6期生の長江美代子(ながえみよこ)さんが、未来の人と自然の再生を目指す「こぎつね広場」(上半田川町969-3)を始めました。

なお、6期生では3人目の本格開業になります(入塾当初から開業しているものは含まず)。事業内容など、開業者本人のコメントは以下のとおりです。

①屋号及び事業概要

こぎつね広場 : こぎつね広場は、未来の人と自然の再生を目指しています。

＜事業の概要＞

1. レンタル畑(休耕地を、自然栽培を基本とした“こぎつね畑”として復活させます)
2. こぎつねカウンセリング(専門看護師による心とからだのケア)
3. こぎつねイベント(主に田舎体験ですが、子どもから高齢者まで楽しめるよう工夫します)
4. こぎつね講座(今年は自然栽培、次年度は山探索について、プロから学びます)

オープニングイベントは自然栽培の基礎講座(7月19日)と演習(9月23日)です。

詳しくはホームページで・・・ <http://www.kogitsune.biz/>

②経営理念

過疎化した田舎を、世代を超えて人とつながり自然に触れ“育てる”体験をとおして心が豊かになる場として提供することで、自給自足的な健康村として活性化したい。

③開業に至った経緯

両親の介護のために実家に戻り、あらためて生まれ育った里山の良さを見直しました。親が手をかけられなくなった家・土地・山・田畑はみるみる荒れてしまいました。ケアする人がいてこそこの里山なのだと、この土地に暮らしてきた人たちの絶え間ない営みを思いました。田畑をケアするうちに、ケアされ癒されている自分を感じ、育てる経験の本来の意義を知りました。

④事業コンセプト

こぎつねコンセプト: “育て育つ(育てる経験で自分も育つ)”

育て育つ場の提供をすることで健康的な営みを支援する。

⑤屋号の由来

新見南吉の「手袋を買いに」の物語が由来です。きつねの母子のやりとりは、次世代育成のための貴重な学びが詰まったストーリーです。とくに最後の、母きつねが子ぎつねのことばに“ほんとうに人間はいいものかしら”と省みる場面に、“育て育つ”人の健康的な営みが凝集されているように感じます。

(参 考)

「せと・しごと塾」は、地域のニーズや課題をビジネスの手法によって解決しようという「地域ビジネス」の創業を目指す方々を支援するもので、地域における起業を促進し、働く場所や機会を創出することを目的に、平成20年度にスタートしました。事業実施に当たっては、塾長、瀬戸商工会議所とともに運営し、さらに大学、地元企業、金融機関など地域が一体となって塾生の創業を支援します。

これまでに卒業生は108名をかぞえ、起業した方は53名(入塾当初から開業しているものを含む)になります。卒業生からは、実践的なノウハウ、同じ創業を目指す多世代の仲間を得られる貴重な場となったとの声を聞いております。

担当課名	産業課 商業金融係
担当者職氏名	内藤
問い合わせ先	0561-88-2652